



組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」
笑顔があふれる学級でスタートするために

西部教育局
お役立ち情報
令和3年4月号

◆「居場所づくり」…子供が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくりだすこと。

※学級や学校をどの子供にも落ち着ける場所にする

◆「絆づくり」…主体的に取り組む共同的な活動を通して、子供自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくこと。

※日々の授業や行事等において、全ての子供が活躍できる場面を実現する

国立教育政策研究所『生徒指導リーフ「絆づくり」と「居場所づくり」Leaf.2』より



子供同士が安心して「絆づくり」に取り組むためには、まずは、子供が落ち着ける「居場所」を教員が提供することが大切です。

ここがポイント!

「居場所づくり」の取組(例)

環境の整備

【ポイント】場の構造化の徹底

- ◆基本的に、物は同じ場所に
- ◆個人スペースは点検を習慣化
- ◆小さな破損はすぐに修復
- ◆ unnecessaryな物や所定の場所以外にあるものはすぐに撤去



シールで印をする



置き方の手本を提示する

規律の徹底

【ポイント】一貫性のある指導と子供に納得感のあるルール

- ◆学校・学年のルールと整合性のある学級のルールの設定
(例) 学習規律、休憩時間の過ごし方、朝の会・終わりの会の分担や流れ 等
- ◆子供が、学級を良くするための必然性を感じることができるルールの設定
- ◆ルールを守ることの大切さに気付かせる活動や声かけ
- ◆子供の実態等に合わせて、ルールを見直す話合いの機会の設定



4月当初、環境の変化で不安を抱えている子供がいます。子供一人一人をしっかりと見ながら、子供が話しやすい状況を意図的に作り、子供の気持ちを丁寧に聞くことも、「居場所づくり」には大切なことです。

※学校生活に困り感を持っている子供や学校生活に不安を感じている子供は、通常学級にも多くいます。
不登校やいじめ、問題行動等の未然防止には、特別支援教育の視点も重要です。

～特別支援教育ほっと通信～



R2.4月号



R2.10月号